

# マリンストアニュース

YAMAHA MARINE STORE NEWS

No.51 '86-5

NAHAMAMA FLEET  
YAMAHA SAILING ASSOCIATION



NEWアダルトスポーツ=ティンギー

海へ出る多趣味型人間たち

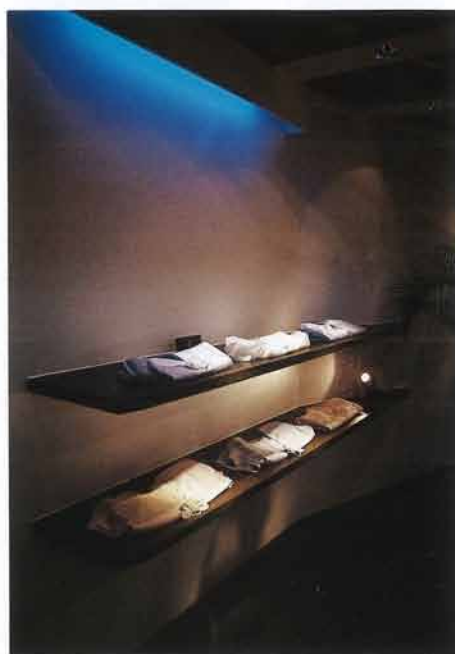
FLOOD TIDE GROUP  
SHIMAZU MIHO FLEET

3



# 主役を際立たせる

## スポットライト



**光**をまんべんなく回して店内を平均的に明るくし、商品をやわらかく、ありのままに見せるというのが店舗照明の常識的なやり方ですが、これと反対に、全体的に暗いなかで一カ所に照明を当てて特定の商品を浮かび上げ、前面におし出すという照明の方法があります。ちょうど舞台上の主役一人にスポットライトを浴びせて、観客の眼を彼にひきつけ、主役のキャラクターを強く印象づけるのと同じ演出です。

商品の持つ個性をお客さんに伝えることがポイントになるブティックでは、このスポット照明を駆使して、商品を表現するだけでなく、店独特の個性をうまく演出するのに成功している場合が少なくありません。

スポット照明は、さいきんでは明るさ、色、照射角度などをさまざまに変えて組み合わせることが可能なので、照明の演出ひとつでお店の雰囲気を実に豊かに盛り上げることができます。



入る、潜る、出る、跳ぶ——マリンレジャーにもいろいろあつて、フィールドが同じ海でも肉体の行動がそれぞれの遊びの違いを表現するところがおもしろい。

入るはサーフィン、潜るはもちろんダイビング、出るはボートやヨット、最後の跳ぶはさいきん伸長著しいボードセイラーの言葉だ。

## 仲間を求める独立人間たち

バッタのセイルマークで親しまれている人気艇種・シーホッパーのセイル面積は七・七㎡だから、四畳半の床面積とはほぼ同じだ。

全長四・二四m、幅一・四四mのワンマンディングの重量は八十四kg、乗る人の体重を六十五kgとすると合計百四十九kgになる。こんな重いものが、畳四枚半ほどの面積のセイルが受ける風の力だけで走るのだからすごい。

昭和四十六年発売以来、一人乗りの俊速艇として人気を集めているシーホッパーの販売数は間もなく一万隻になる。現在、ヤマハセイリング協会(YSA)の中でも会員数が最も多いクラスだ。昭和六十三年度の京都国体からの正式種目(成年男子二部)艇として決定した昨年からは、同クラスのレース活動はますます



「最近跳んだ!」なんていうふうにあいさつ替りに使わらしい。

入る、潜る、出る、跳ぶ……これらは海での遊び方の違い、つまり道具の違いを表わしている言葉でもある。

マリンレジャー最前線、第三回目のテーマは海へ出る組の「ディングー」だ。

ますます盛んになっていく。四月五日に江の島(神奈川県)と淡輪(大阪府)で同時開催された東日本・西日本の選手権には、北は室蘭から東日本、南は熊本から(西日本)、東西合わせて七十五隻のシーホッパーセイラーが参加し、その人気上昇を裏づけた。

ディングーは、野球やサッカーなどの集団

マリンレジャー最前線

3

NEWアダルトスポーツ——ディングー

# 海へ出る多趣味型人間たち

ミニホッパーもオリンピックの470と同じディングー。老若男女、だれでも年齢やその技量に合った楽しみ方ができる人気マリンスポーツがディングーです。本格的なシーズンを迎え、活況をみせるディングー市場からのレポートをおとどけしましょう。

競技とは反対に位置づけられる個人競技だ。しかも、相手は風と波、大自然なのだ。自然は初心者だろうが女性だろうが情容赦しない。天気図上の一本の線、前線の接近でたちまちベタ風ぎの海には風が起り、波立ってくる。その通過で風向は一変し、初心者は不意をつけられる。

思わぬトラブルは何にでもつきものだ。陸上でのジョギングなら、とにかく立ち止まって救助を求めることも出来るが、海上ではそう簡単にはいかない。ディングーセイラーは海上で予想されるあらゆる状況に対処して、なにもかも自分でやりぬく「独立人間」たることを目指さなければならぬ。

しかし、ディングーを始めたばかりの初心者が、いきなり「独立人間」になれるわけではない。やはり、先輩やインストラクターから帆走技術をしっかりと教えられ、潮流や風の読み方を学び、海域の特徴を知る……という段階を踏みながら、「独立人間」へと一歩一歩を着実に成長していくのだ。

さらに、地元漁業者とも親しくなつて、浜の施設の利用の仕方や海上のマナーを身につけるのも、自身の行動半径を拡げるために大切なことだ。海上での「独立人間」も陸では







「協調人間」であることが要求されるのだ。

むしろ、ディングシーラーは、なかば本能的に同好の仲間を探し求めているともいえる。帆走するときは一人一人でも、彼らはいいたい仲間を持ち、なんらかのグループに加わっている。ディングシーラーの組織には、YSAのような全国組織もあるが、それ以外にも彼ら結びつけるさまざまな「共通項」がある。規約を定め、会費をとるクラブもあるし、艇を預けている保管場所や艇を購入したショップなどに自然発生的にクラブは生れる。また、馴染みのビーチもセイラーのたまり場となる。さまざまな形態の「共通項」がディングの世界を多彩にし、活気をもたらしているのだ。

東京都下、羽村にあるマリンストアへ「サーティクル」は、「サーティクルヨットクラブ」をつくって、それをイベント運営にも販売にも最大限に活用している。クラブは、「サーティクル」でディングを買ったユーザーとその友人たちの集いだ。店主の麦島さんは「ユーザーのネットワークをつくり、それを活かして販売網を拡大する」のが狙いだと言うが、クラブ員が固定化して、それにともなって排他的ムードにならないようにたえず気を配っている。

サーティクルの活動は全てこのクラブが主体となっていて、麦島さんの店舗はクラブメンバー（ユーザー）のたまり場だ。クラブではTシャツ、トレーナーはもちろん、オリジナルのステッカー、エンブレム、フラッグもそろえている。

## ■ 商売になる「保管業」

さて、マリネレジャーのメッカ・湘南に眼を移そう。セーターを脱ぐにはまだ少し早い、肌寒い四月の日曜日、ディングシーラーやボードセイリングで賑わう逗子海岸を眺めていると、「メッカ」という言葉が絵空事でないことがよく分かる。

逗子海岸と湘南道路一本はさんだところに、三年前にオープンしたディング保管場所「ヘーリングスポット100」がある。もともとマリネ業界とは無縁の会社が事業のひとつとして始めたもので、四〇〇坪の敷地に四十坪のクラブハウスがあって、現在二百五十隻のディングを保管している。

建物の二階は事務所・トイレ・シャワー、二階はメンバーが自由に使えるミーティングルームとテラスになっている。広々としたテラスから首を出す、砲弾型の船底をさらしてディングがタテ置きラックにすわりと並んでいるのが見えた。ディングの保管場所として、それだけで営業していく方針だから、ここで販売するものは必要部品と備品に限っている。「あと百隻は入ります。最新のラックを使えば現在の倍の数を収納できるらしいのですが、あまりぎゅうぎゅう詰めにしたくありません。艇数を増やすぎると、安全面で目が行き届かなくなるし、だいいち、お客さまの遊びにゆたかりとしたところがなくなってしまう。



これは本格派。8隻のディングが納まっている。トレーラーはまだ少ないと、常設の艇置き場となる。うが業。

「す」とは責任者の木場さんの話し。逗子駅から徒歩で十五分。電車で来れば都心から一時間半という交通の便は、シーズン時の車の渋滞を考えると、まず良好と言える。だから駐車場のスペースは二十台でいとおさえて、ハイシーズンだけ近くの駐車場と契約しておくというやり方を選んだのだ。

「ヘーリングスポット100」は、ディング保管業が、それだけで商売になるという見通しのもとに話が始まったのである。初めから商圏を東京と神奈川周辺に絞り込んで場所選びにとりかかったというが、「マリネレジャーのメッカ」なればこそ実現できたと言える。



オリジナルデザインのTシャツなどは、いまや当りまえ。これもディングライフのひとつ、そろいのウェアは仲間意識を高める!?

## ■ 安全のネットワークづくりは仲間同志の遊びから

神奈川県・湘南の七ヶ所のセイリング・スポットがディングセイラー、ボードセイラーの安全のための目的とする（神奈川県セイリングスポット連絡会）を結成したのは一昨年の六月のこと。

広範な海域を活動するディングシーラーやボードセイリングに対する安全指導やそれらの対策を、それぞれのセイリングスポットが独自に

おこなっていたのでは間に合わない。そこで連絡会をつくり、エリアごとの連絡網や浜の遵守事項をとり決め、安全指導員（帽子・腕章・旗を作成）による浜のパトロール、出港（帰着）届け用紙作成、ルーフキャリアについての安全指導などをこれまで実施してきた。また海上保安庁の担当官を招いて「海上での安全教室」を開催して、創設以来いろいろ



な角度から海の安全対策と積極的に取り組んできている。

四月十三日、同連絡会主催の「セーリングスポーツ対抗大会」がおこなわれた。昨年に続いて二回目の大会だ。

これは「セーリングスポーツ連絡会の知名度を上げるためのイベントでもあります。基本的には安全は個人の責任なので、われわれセーリングスポーツ側が裏方として動いても、ユーザーのみなさん一人一人が自覚してくれないは実を結びません。だから、この連絡会の存在と、その意図を広めてゆくための策のひとつというわけです」と世話役の一人、セーリングスポーツ100の木場さんが説明する。

「セーリングスポーツ100の木場さんが説明する。駅伝大会といってもマラソンではなく、デインギーマットを使うのりレーセイリングだ。浜から浜へ、中継地点をひとつ設置して片道二レグ、往復四レグのコースを一レグ二人、チーム八人で競うというもの。今回は六つのセーリングスポーツから七チーム、五十六人が参加した。



「ヨットがうまい人が勝つレースではなく、参加する人だれもが楽しめて、応援する人たちも一緒に遊べるイベントです。そうでなければ出場する人間に限られてしまいます。遊びの中から、セーリングスポーツ同士、相互の親睦が生まれ、それが『海での安全』につながっていくのです」

神奈川県セーリングスポーツ連絡会という組織も、こうしたイベントも、湘南というマリネジャー先進地という土壌から必然的に生まれたものである。

## ■デインギーマットも新人類時代か バラエティ豊富な遊びのメニュー

ウェットスーツやドライスーツは、マリンスポーツのオフシーズンに短かくするとともに、トロピカルとは縁遠い海に色鮮やかなアクセントを与えてくれた。

セイリングを終え、デインギーマットを載せた船台を引っぱってセイリングスポットに戻ってくる人たちはみな、機能性とファッション性に富んだ最新のセイリングウェアに身を固めている。デインギーマット本体と艀装品の水洗いが終わると、こんどはホースから勢いよく出る水を頭からかぶり、ドライスーツを着たまま全身の潮出しをする。そんな姿に、歯をくいしばって人知れず努力するという、求道的なイメージは全くない。

二十五歳から三十歳、サラリーマン、営業マンタイプは少ない、多趣味、八割は男性：「逗子にあるヤマハマリンストア（ハスループジョンB）の高安さんは、デインギーマットの映像を、こう説明する。

「ドライブ、テニス、スキー、ゴルフ……なしらみなん多趣味ですね。デインギーマットのシーズンというのは、海の条件がどうこうじゃなくて、むしろ遊ぶ側の都合でつくられるのだと思いますよ。ボードセイラーにくらべれば、年齢が上で経済力もある。そしてそれぞれの遊びの世界で、それぞれの仲間と付き合うのですね」

多趣味型人間にとって、デインギーマットは、彼らの豊富なブレイ・メニューの一つというわけだ。

「だからヨットに来たときには、その活動ベイスになるマリナーやセイリングスポットのカラーが大切。保管場所はただ単にデインギーマットを置くだけの場所ではないのです」

保管場所を持たず、セールズ一本で商売をする高安さんだが、それだけにかえてセイリング・スポットという、場の重要性を強く感じているようだ。セイリング・スポットでは、きのうまで互いに知らなかった他人同士が集まり、そこで共通の時間と空間を過ごす。だから、新しくセイリング・スポットに加入する人は、そこが自分の方針と好みを満足させるところかどうかを真剣に嗅ぎ分けようとする。ここは、どんなカラーなのか、ファミリーセイラーが多いのか、国体級のセイラーの集まる場所か、ハーバーマスターに潮気はあるか、設備の内容はどうだろうか、等々。この新入生心理を、高安さんは言葉を変えて次のように説明する。

「初めてデインギーマットの世界へ足を踏み入れたとき、お客さんは誰でも少し不安になるものです。人見知りもする。セイリング・スポットが早くそれを取り除いて、アット・ホームな気持ちにしてあげなければ長続きしません」

前出の木場さんが、ちかごろのセイラー気質について話してくれた。



スラリ並んだデインギーマット。船台は18台あって、ハイシーズンはちょっと不足するときもあるが「トラブルはありません、互いに手伝ったりして仲よくやっています。そうしたマナーとムードづくりも大切ですね」と木場さん。

「お客さまが苦情を言うてくるのですね。私たちは遊びにきているのに、何であんなにキツイ命令調で言われなければならないのか」

「そうですね。ヨット部の連中には当たり前のことなので、私が、私は、お客さまが文句いっただけでも、と、思いました」

デインギーマットは、波や風とだけ遊ぶのではない。彼らは、むしろ、デインギーマットを通して、どのような「デインギーマットライフ」が待っているのか、つくっていくことができるのか、に期待をかける。人との出会いや気持ちのよい環境などを含めた「トータルな遊びの場」を求めているのだ。オトナの社会をつくるデインギーマットライフと切り離せないのが、「ヘサティクル」のようなクラブだ。ただし、クラブの弊害のタネはその閉鎖性にある。どんなにオープンにしても、どうしても、ヨソ者から見るとやはりそこに独特の雰囲気や育っていて、近づきにくいところがある。逆に言えば、そこがクラブのクラブらしさになるのだが、一つの研究課題ではある。

デインギーマットという、技術的に十分に成熟した商品を提供する立場にいる私たちにとって、いま一番問われている課題は、今後どのような「デインギーマットライフ」を創造していくか、ということではないだろうか。

〈取材協力〉



●木場 隆男(47歳)

セイリングスポーツ100の責任者。デインギーマットに乗ったのはこの仕事についてから、今では時おり気ままなセイリングを楽しむ。



●高安 博一(35歳)

甲南大学のヨット部OB。昭和五十八年にスループジョンBを始め、昨年七月にはショップをオープン。

### 背番号80。バレーボールで体力づくり

鹿児島県熊毛郡屋久町 南国モーターズ／泊 照夫さん

泊さんの趣味はバチンコに釣り、そしてバレーボールです。バチンコは気持ちに合わせる程度ですが、釣りは月の半分は出ます。「水イカ釣りが楽しみですね。仕事が終ったあと夕方六時ごろから十時ごろまで、多いときには五、六枚あげますよ」水イカの喰うたときの醍醐味やな、ひきがスゴイ、あれが何とも言われん」とその楽しさを話します。

泊さんが「健康のため」に力を入れているのがバレーボールです。泊さんが所属しているチームは△フォアティン。文字通り四十代の働きざかりの仲間が集まっています。泊さんの背番号は8番。月に一度の町内の試合には必ず出かけます。「練習不足ですからね。思うように体が動かなくて」という泊さん。でも、ユニフォーム姿もなか



なかのもの、いつか目の覚めるようなスパイクをたたきこんでください。

### ヨットは子供に独立の精神をおしえる

新潟県西頸城郡能生町 タツミサイクル／小島 均さん

んは「シーマーチンS」か「ミニホッパー」でこれに参加します。

子どもの頃からテンマに船外機をつけて能生海岸を走りまわっていた小島さんは、高校を卒業した頃からヨットを始めました。ヨット歴はもう二十年。友人と共同でクルーザーを持った時期もあるが、小島さんには、デインギが性に合っているようです。「デインギのなかでも、シングルハンド（一人乗り）がとくに好きですね。海の上でなにもかも自分で責任をもって行動するところが魅力なのです。ヨットは若い人に『自立の原点』を教える、というのが私の持論。長男の哲也（小学五年）は、去年はじめて柏崎のレースに出場しました」



タツミサイクルでは昭和五十三年からYSA能生フリート事務局をつとめています。毎月第三日曜日が小島さんの「ヨットデー」、地元の「久比岐セイリングクラブ」と合流してミニレースをひらきます。小島さ

### 夏が待ちどおしい、家族ぐるみのアウトドアライフ

宮崎県南那珂郡南郷町 松田商会／松田はつ子さん

はつ子さんは、ご主人といっしょに店の商売にはげむだけでなく、自分では三反の田に田植えをして米づくりをするという、なかなかの働き者ですが、休日にご主人と長女幸恵さん（中学三年）、長男典夫くん（中学一年）の親子四人で海へ出ることを一番の楽しみにしています。

まずポイント釣り。これはヤマハポイントF-24で都井岬へ遠出します。自分はお弁当をつくっていっしょに乗り込むだけで釣りはしません。ご主人と息子がクロダイやメジナを釣り上げるのの心をおどらせます。それからヨット遊び。夫がYSA日南フリートのレースに参加すると、はつ子さんは陸から観戦しますが、友だちとのヨット遊びの日曜日はミニホッパーに自分も



仲間といっしょに、松田はつ子さん（後列右から4人目）と松田謙一さん（前列右から3人目）

### 子育ても花育も心ほぐし

兵庫県姫路市八家（株）サンヨー／嶋田幸子さん

「わが家には男の子が三人。末の子が、この春小学校に入学したので、子育てにホッとひと息入れたところ。子どもが家がない時間だけが自由になれる時間なので、私は友だちのおしゃべりや庭の土いじりを楽しんでます。四、五年前からベゴニアが好きになり、庭に一坪の温室をつくりました。去年の秋、

ベゴニア栽培の友の会に入ったので、月にいちど、お仲間に出かけますが、そこで花づくりの先輩から色々おしえてもらうのが楽しみです。花は土地々々の様々な条件のなかで育つのですから、他人の栽培技術を聞く、それを参考に自分なりの育て方を考えなければならず、物を考える勉強になります。子どもが幼いあいだは母親が育児の責任を預っていると考えると、私は、どの子も保育所には入れないで育ててきましたが、このころ、子を育てるのも花を育てるのも根本は同じだなあと気がつきました。どちらも、健康な環境を整えてやって、のびのびと自分の力で育っていくのを見守ることが大切なのではないでしょうか」







今月の  
テーマ

## 共同経営者として 活躍しているマリン奥様

今月号では、店主の奥様が販売、サービスそして経理事務に大活躍しているマリンストアさんを訪ねました。その活躍ぶりは、昔風の「内助の功」というのとは少しちがっていて、ご主人といっしょに、いわば共同経営者としてご商売を支えているところが光っています。そしてまた、そこは奥様……女性ならではのこまやかな気くばり、眼くばりがお店に独特の魅力をつくり出しているところに注目したいのです。

# もう一人のマリン社長さん 30年間の自己啓発の重み

● 志田輪船店 / 小松久美子さん 岩手県大船渡市末崎町



お客様とご主人（左端）に囲まれて



深く切り込んだ大船渡湾の入口に、もう一つ小さな入江があります。それが細浦港で、浜通りのなかほどに志田輪船店があります。小松文男さん、久美子さん夫妻はここで三十年前から商売をしてきました。

春の三月、四月は養殖ワカメの収穫期。朝七時ごろから店の前の道路は、沖から積んで帰ってきたワカメの水揚げと浜に据えつけた釜での釜ゆで作業でにぎわいます。七時半になると、まず店主の文男さんがあたりの漁師

さんたち誰かれなしに声をかけながらやってきて、店を開けるのがならわし。つぎに、八時をまわると次男の功也さんがやってくる。彼は高校を卒業すると東京へ出て、数年間会社勤務をしましたが、二年前に店の跡を継ぐため細浦へUターンしました。

さて九時半ごろに奥さんの久美子さんが出勤します。朝の片付けをしてから家を出るので、いちばん最後になるのです。この時分には、文男さんはひと仕事すませてストープの前で茶を飲んでるか、あるいは、近くの作業場へ行って和船の機装にとりかかるかして

います。

文男さんは、よく、奥さんのことを「社長」といいます。ヤマハのセールス担当に「ああ、その話なら社長にしてくれ」といった調子で、それならあなたは何なのかとききかえすと、「わたしは盲腸さ」。この冗談のやりとりが好きなのです。

商売は生き物だといえます。わたしたちは誰でも、つい、毎日々々おなじように店を開いて、おなじ仕事を繰り返してきたような気持ちになりがちですが、しかし、ちょっと反省をすると、商売に移り変わりがるように、商売をする人間の方にも自分でも驚くほどの変化があったと分かります。それが、いわゆる自己啓発の歩みというものでしょう。

たとえば文男さん



朝のサービスに出かける功也さんと打合せ。

ので自転車、バイクの販売店を始めたのです。ヤマハ船外機の販売が始まり、さらにヤマハ和船を販売するようになると和船の機装や修理を手がけるようになり、いまでは漁師さんの色々な注文に応えながらスノコ、物入れ、イケスなどをつくる和船機装の仕事の方が、おもしろくなったのです。

もう一人のマリン社長、久美子さんにも自己啓発の歩みがありました。昔は、彼女の役割りは店番と自転車のパンク直していただったのですが、大船渡湾の養殖が発達してくると、船外機サービスに首をつっこむようになります。

「門前の小僧でね、さいしよは見よう見まねで、プラグ交換などちよつとしたことから始めました。そのうちに、とうさんが忙しくなって浜から浜へとび歩くようになると、パーツの注文は私がとうさんに代ってするようになりますので、パーツの名称をおぼえなければならなくなりました。パーツの名前とそれが付けられる場所が分かると、船外機のしくみが少しずつ分かりだしましてね、漁師さんから故障の電話が入ったときも、だいたいの応答ができるようになったのです」

ご主人からやって見るとけしかけられて、昭和五十四年にヤマハ船外機整備士資格認定

試験に挑戦したら、これが見事合格。すっかり自信をつけて、それからは文男さんのまわり切れないときは久美子さんが出張修理に行くようになりました。整備技術に興味があくと、自分から色々と文男さんに質問することが増えたそうです。

功也さんが東京から帰ってきてから、久美子さんは、また店番と自転車修理に戻りました。そして、ときどき思いをめぐらすのです。

「とうさんは、すこしも気取らないで本音で物をしゃべる人だから、お客さんは入れかわり立ちかわり店へやってきて、しゃべりこんでいます。ところで、最近とうさんは朝も早い夜も早くなった。日が暮れるとさつ

さと家へ帰りますが、そのあとは、こんどは若い人たちが店に遊びにくるようになりました。みなさん漁師の息子たちだから、いうなれば後継者たちで、功也が話の相手役です。漁の話ばかりじゃない、若い人はバイクに乗るから、そちらの話も弾みます。こうやって、あの子は、長年のあいだ守ってきた「お客」という父親の財産を譲り受けていくのでしょ

う」  
外を歩いて人とおしゃべりするのが好きだから、息子に嫁が来たら、彼らに店番を渡して、自分は外交をしたいと、久美子さんは語るのです。

## 島の暮しの曆に融けこんで働く おしどり夫婦

● 中村モーターズ／中村初代さん 三重県鳥羽市答志町



鳥羽から連絡船で約三十分。伊勢湾と遠州灘をつなぐ伊良湖水道にある答志島は、昔から漁業が盛んなことで有名です。上げ潮、下げ潮に洗われる島の磯はアワビ、サザエ、養殖ノリ、養殖ワカメの豊富な磯もの資源に恵まれており、また春夏秋冬の季節に応じてキス、サワラ、イカ、コウナゴなどの回遊魚が

つぎつぎに島の周辺にやってきました。人口約三千人の答志島には答志、桃取、和具の三つの漁村があつて、約三百隻のディーゼル漁船、船外機船が働いています。

ヤマハ漁船、ヤマハ和船、ヤマハ船外機にとつて答志島は中部地方で最も重要な市場の一つですが、和船と船外機にかんしては中村モーターズが販売とサービスを一手にひきうけています。

中村義次さん、初代さん夫妻は、朝八時に忍くん(中学二年)、ひとみちゃん(小学六年)、志織ちゃん(小学三年)の三人を学校へ送り出すと、夫婦二人で浜へ下りて行きます。この日課から一日の仕事が始まるのです。港から出ていく船、港へ帰ってくる船を見まもっていること、漁師さんの方でも彼らがそこに立っていることを良く知っているの、なにかトラブルがあるとすぐ彼らに声をかけてくるのです。「修理は、たいてい浜でやります。家内がそばにいて介添えするから、仕事は速くて確実。遠方のお客から電話がかかつたときは、二人でクルマに乗って出かけます」

二人は島育ちですが、学校を卒業すると都市へ働きに出て数年後に島へUターンしてきたことも共通しています。義次さんが開業した十数年前は、島では各メーカーの船外機が入りみだれていましたが、二年後に結婚をして、「おしどり組」の販売サービスを始めると、たちまち信用を得て、四、五年のあいだにヤマハ船外機をトップシェアにおしあげました。二人目の子供が産れたときは少しエラかつ



答志島の春は、シラスの天日干しで大忙がし

たけれど、おばあさんに上の子の守りをたのんで夫と二人の仕事を続けた、と初代さんは語ります。「このごろ、たまにお客さんからひやかされるのです。もう、子供を背負うてこんなようになったなア、って」

答志島の女性は働き者が多いことでも有名です。朝は四時に起きて家族の朝食を仕度すると、五時には夫といっしょにコウナゴ曳きやエビこぎの漁船に乗って沖で働きます。それはかりか、夏は、七月一日のクチアケを待ってアワビ、サザエを採る海女漁をするので

す。  
船外機、和船の商売は九月から四月までのノリ養殖と一月から五月までのワカメ養殖の時期が繁忙期で、夏はちょうどヒマになる時

出船、入船を見守る中村さん夫婦







左から、ご主人の岡村さん、友子さん、植田さん。長男の和紀くんはいつもお母さんのそばを離れません。

# 人の良さが何より人気 司令塔奥さまは力持ち

●ハワイマリン／岡村友子さん 鳥取県東伯郡羽合町

鳥取と米子のちょうど中間あたり、国道9号線沿いに「ハワイマリン」さんの新店舗があります。五〇〇メートルほど鳥取寄りにあった旧店舗から引越したのが三月一日。九日にオープン記念セールをしたばかりです。マリン奥さま・岡村友子さんの一日は午前九時の出社からスタートします。午前中はお客さまの応対に追われて、店を掃除する時間さえありません。

「昼ごろからちょっと時間ができて、三時前後からまたバタバタとね——コーヒーを三十分杯出す日も珍しくないですね。私の役目はお茶くみと電話番ぐらいなものですよ」と明るく話す友子さん。

そこで初代さんは、五年前から、この海女漁をやり出しました。

「わたしは深さ二、五メートルの磯に潜ります。さいしょは岩の下へ手を突込むと、カニに指をはさまれてびっくりしました。海女は腕しだいの仕事で、一日に十万円も稼ぐ人がいれば、一万円にもならない人もいます。でも、わたしにとっては待ちどおしいレジャーの季節なのです」

島の暮しは労働ばかりではありません。季節おりおりの村のレジャーがあります。なかでも春二月の「神祭(じんさい)」は一年で最大の行事。祭りは三日間つづき、青年会、婦人会、「寝屋子グループ」がおもしろい趣向をこらした芝居を打って、みんなを楽しませるのです。芝居は時代劇、現代劇と色とりどりですが、漁師さんのなかには脚本書きを引きうける「プロ」だっています。義次さんです。こしまえまで歌謡バンドをつくって出演

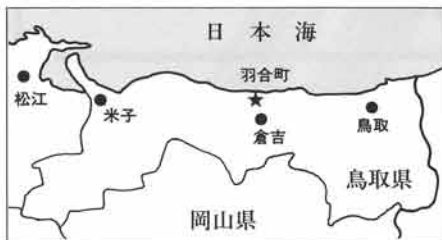


しました。さいきん、それを復活させようかと思索しています。

働くことは、いつこう苦にならないと笑う初代さんですが、伝統的な村の共同生活のなかに労働とレジャーの二つが織りなされている、それが一年の暮しのリズムをつくりあげているところに、明るい生活態度の秘密があるのかもしれない。

「商品の良し悪しとは別のところで、口コミが大きく影響する商売。店の、つまり働いている人の評判が悪ければ、いくらいい商品を並べてもダメ。とくに人口の少ないところになればその傾向は強くなる。そうした点ではウチのは合格です」とご主人。

「誰れにも分け隔てなく接してくれます。自分意識しないと、お客さまへのサービスに継がっているようです。電話の応対にしても、われわれが留守のときの中継ぎ役としても、気のいいところが受けているんじゃないかな。体格も、おふくろ、の感じで安心感あるし」冗談を交えながら、友子さんの内助の功を話す植田さんです。



3月9日にオープンした新店舗。旧店舗は借屋だったので「遠慮があった。もったいまり仕事してほしかったですからね」奥さまのこうした熱意が新店舗オープンの原動力になりました。

「船外機を運び出すときなど、力仕事もよく手伝ってくれるじゃないですか」サービスの植田さんが横でいうと、「そうねえ、たまにね」と相好をくずして笑うマリン奥さまです。

ご主人の岡村隆幸さん(37歳)が、漁師さん、植田さん(29歳)が「レジャー」をそれぞれ担当していて、三百通を数える展示会などのダイレクトメール、仕入帳、売上帳、経費明細帳などの全てを奥さまが管理しているのですから、とても「お茶くみと電話だけ」が仕事ではありません。

あわただしい毎日の中で、奥さまが書き続けている記録帳があります。

「釣りから戻ってきたばかりのお客さまが、店で話すことをそのまま書き留めているだけ



「ハワイマリン」さんから車で7~8分、店から一番近い市場——泊漁港です。

ですヨ」そうひかえ目に話す奥さまですが、A4サイズの大学ノートに、へいつ・どこで、何を釣ったか。そしてその時のお客さまの声がビッシリ記載されています。

「バラバラとページをめくっているだけで釣りに出かけたくなるし、去年は——こんなんだったのかと分かるし、魚探があるとやっぱりいいんだなあなんて、何となく始めたんですがお客さまの反応がいろいろあって、続けているうちに自分でも楽しくなってきました」

ご主人と植田さんは、営業や修理でほとんど外出していますから、こうしたきめ細かなことは、奥さまならではのものかもしれません。

「お客さまの注文はきちんとうかがって私たちにバトンタッチする、電話番号としても絶対に留守のときがないようにと頼んでいるんですが、なんとかやってくれています」マリン奥さまの役割を話す岡村さんです。

昨年の八月に待望の長男が生まれ、新店舗の机の脇にベビーベッドを持ち込んでがんばる奥さまですが、これまでのようにはいきません。「おらんようになって初めてはいへんさが分かったヨ」とご主人。ハワイマリンの看板奥さま・友子さんを中心に、三人のスクラムはがっちり。司令塔として、母として友子さんの毎日はますます忙しくなりそうです。

## トピックス

### カナダ・インディアンの手で ヤマハ和船を現地製造

ヤマハ発動機(株)では、カナダのクリー族インディアン(人口6万人)の要請を受けて、ハードソング南端のフォート・ルパートにFRP製ボートを製造する合弁会社「クリー・ヤマハモーター・エンタープライズ」を設立しました。

これまで、漁業、狩猟、輸送などの足がわりに、現地で使用していた船外機付きカヌーの事故が多いので、それに代るものとして、より安全性の高いFRP製「ヤマハ和船」(船外機付き)を現地に持ち込んで紹介したことが、この話の発端となったもの。

新和船工場は6月から稼働、現地人の手による2種類のヤマハ和船を当初は年間200隻、3年後には450隻を目標に生産しようというもので、これは「雇用促進などによる少数民族の経済自



去る3月20日、カナダ・オタワ市の国会議事堂でおこなわれた合弁会社設立の調印式

立と地域産業の開発助成」をはかるカナダの国策にマッチするものとして、歓迎されています。

### 新水族館に一大ヨットハーバー マリン環境づくりに 本腰を入れた東京都

埋立によって失われた「なぎさ」を都民に取り戻そうと、「人工なぎさ」の建設で話題となった「葛西臨海公園」(東京都江戸川区葛西)に、「海中のようすをそのまま再現する」などの新しい構想を盛り込んだ一大水族館を建設する計画が、このほど発表されました。

直径170mの円形の池に浮かぶように、「本館」、「海獣生態館」、「ふれあいパビリオン」……と

三つの建物が建設され、海中生物の生態が自然に近い状態で観察される大水槽。ペンギン、ラッコ、大型のサメ、成魚のサケの飼育。アシカ、トド、イルカ、クジラの遊泳。手に取って学ぶことのできる磯の生物……などが呼びもの。

また、水族館とは別に、東京港に一大ヨットハーバーをつくらう、という構想も東京都にはあって、建設時期、マリーナの位置など、まだ未定の問題も多いが、東京都港湾局では既に湾内の実態調査も始めており、3月の都議会予算特別委員会では鈴木都知事は「早い時期の完成」を約束しました。

### 第25回東京国際ポートショー

#### 人気を呼んだ ヤマハホーバークラフト



花に先きがけて「マリンフェスティバル'86」と銘打った、第25回東京国際ポートショーが、2月28日から3月4日まで、恒例の東京国際貿易センター(東京都中央区晴海)で華やかに行われました。

出展社数は89社6団体。最大のブースを使ったヤマハ発動機(株)は、ボート、ヨット(35艇種)をはじめ、船外機、プレジャーディーゼル、各種マリン製品などを豊富に陳列して人目を集

めていました。

会場の話題は、未来のプレジャーボートへの試みの一つ、ヤマハ小型ホーバークラフト「SES」や、明年にオーストラリアのメルボルン/大阪間で行われる2人乗り太平洋縦断レース、「ヤマハ・大阪・カップ1987」に参加予定のヤマハ外洋クルーザー「YC-35CR」が独り占めしていました。

## 新刊紹介

### 『ここまで狂えば、 秘伝釣り』

山背竜二著 二見書房刊

書名に「秘伝釣り」をうたうからには、トリチギな著者は、身体の悪い2人の釣り名人が大イシナギ釣りに挑む小説、「秘伝」で直木賞を受賞した高橋 治さんを先ず訪ねた。

——秘伝の奥儀ともいべき山タテが、魚探をはじめとする近代的釣り兵器にとって変わられ、釣り道具の糸、ハリ、竿などのレベルアップと、高度の釣り技術を使わずとも、コマセ釣りで魚は釣れる時代になった。秘伝は僅かに精神的な部分にのみ存在し、釣りは遊戯に変わってしまった——との嘆きを聞く。

さようしからば、釣りに狂った人々のトコトンの釣りの人生を追求することで、「秘伝」がかたちづくられるのではないかと方向を変えての釣りキチ探し。

「ヘソ曲り精神が生んだブダイ攻略15年の大作戦」から「恐怖のトコトンのトン」まで、自他ともに許す53人の釣りキチ列伝。

▶お問い合わせは、最寄り書店または、(株)二見書房 〒112 東京都文京区音羽1-21-11 ☎03(942)2311

## 浜の歳時記

### 船の漕ぎくらべも 豊漁を祈る年占いだった

船の漕ぎくらべで有名なものは、香港チームとの国際レースも行われるようになった、長崎市のペーロン。沖縄の海神祭に行われるハーリー船競争。歴史をぐっと遡って、大國主命の国譲り神話を今に伝える、島根県美保関神社の諸手船神事などは、今日でも盛んに行われているが、これらは、いずれも短かい権で漕ぎ競争。

かつては、「船ぐる」とか「おしぐらんこ」と呼ばれた、和船特有の推進器「櫓」を使った競争が、祭や節句行事として各地の漁村で行われ、漕ぎ勝った組はその年の豊漁に恵まれるという、年占い行事としての意味も深かった。

愛媛県北条の「カイネリ」や兵庫県赤穂の「カイ伝馬競争」は現在も行われているが、宮城雄太郎「漁村歳時記」でザッと拾い上げてみても、岡山県笠岡の「おしぐらんこ」、香川県小豆島の「舟ぐる」、広島県豊田郡の「カイデンマ」、山口県周防大島の「オシブネ」、香岐島勝本の「舟ぐる」、福井県小浜の「裸漕ぎ」、佐渡島の「タライ舟競争」、……漁船動力化のすすんだ今日、それらの中のどれほど残っているのだろうか?

あなたの浜の、特徴ある「船競べ」もぜひ教えてください。



## シーズンまぢか

豊富なヤマハ

# 水上スキー用品

に注目してください



“水面を走る”あの爽快感を一度味わってしまうと、誰もがやみつきになってしまうのが、水上スキー、これからがシーズンです。

水上スキーの上達法のひとつは、優れたスキーボードを選ぶことにもあります。お客様の身にあった、最適のものを選んであげるのはモチロンのことですが、水上を滑走するだけに、ジャケットやベスト、グローブ、ロープ類にいたるまで、十分な安全を考えた上で、おすすめください。

なお、ヤマハでは、この写真以外にも、豊富なスキー用品を揃えて、ご注文をお待ちしています。

はやく上達して、安全に滑れるためにはスキー用品を上手に選ぶことです。

### スキーロープ



★水上スキーロープ  
(長さ25m)  
No.90890-42003 ¥2,800

新製品

★スタンダードスキーロープ  
No.90790-44016 ¥4,500



★水上スキーロープ  
(フロート付、長さ25m)  
No.90890-42064 ¥3,500

新製品



### スキーボード

★サンダッシュ 67"  
No.90790-43009 ¥39,000

### スキーグローブ



No.90890-87642(S)  
No.90890-87643(M) ¥6,900  
No.90890-87644(L) ヘルク口止め

### スキージャケット、ベスト



★スキージャケットインペーダー  
No.90890-87695 ¥19,000  
(フリーサイズ)



★ラバースキーベスト(銀)3本ベルト  
No.90890-87664(M) ¥28,000  
No.90890-87665(L)



ラバースキーベスト(銀)3本ベルト  
No.90890-87663(S) ¥28,000

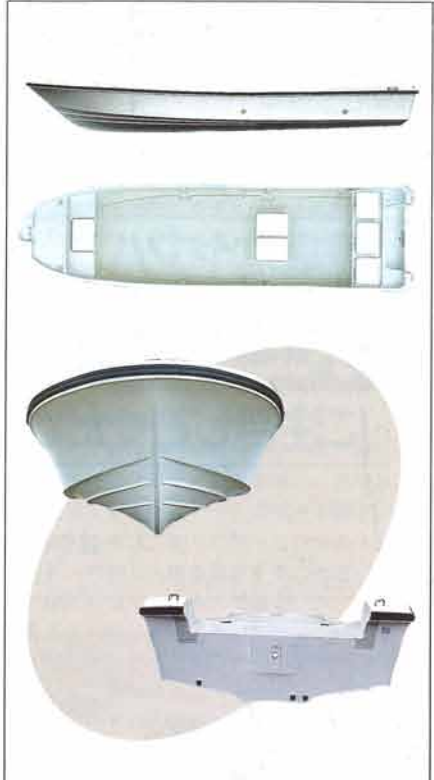


★ラバースキーベスト(銀)2本ベルト  
<子供用> (写真はCY)  
No.90890-87666(YL) ¥26,000  
No.90890-87667(CY)



# ハイスピードと凌波性を徹底追求 高馬力対応を実現した25尺

## ヤマハ和船 W-25DF・DH



幅広和船の普及がすすむなかで、いままでになかった25尺級をラインナップに加えしました。マニュアル60馬力、リモコン90馬力と高馬力搭載を実現。さらに、このクラス初の2基掛け(40馬力×2)を可能にしました。

「イケスあり」「イケスなし」の2仕様を標準化するとともに、大型ステアリングボックスと固定燃料タンクをオプション(特艷)に設定して、多様な市場要望にお応えします。

- 強めにした船底V角度と強めのフレアーで、凌波性とスピード性を徹底追求。
- ウェッジタイプのキールを採用して、風流れと横すべりをおさえ、旋回性を向上させました。
- 乗り降りしやすい2段式のパウデッキ。また船首物入れのスペースを広くとりました。
- 船尾に3連ハッチを設置。物入れにはバッテリースペースを2ヵ所設けました。
- 直線的なシャーラインが走航時の視界を良



- くし、またスタイリングを一新させました。
- 波の打ち込みを防ぐモーターウエル。
- 艻装しやすく、網がかりしにくいガンを採用。
- DH仕様では、島型2連イケスを設置。
- ステアリングボックスとFRP燃料タンク(80ℓ)をオプションで用意しました。

●写真はすべてW-25DH。ステアリングボックスはオプションです。

### 仕様諸元

全長	7.52m
全幅	2.06m
全深さ	0.77m
重量	DF=560kg DH=610kg
最大積載量	DF=1,240kg DH=1,190kg
呼称最大馬力	マニュアル=60馬力 リモコン=90馬力
連続最大馬力	マニュアル=60馬力 リモコン=90馬力
トランサム	L
予備検査	オーダー受検
航行区域	限定沿海
定員	11名

## いいもの先取り、お支払いは後から!

《ヤマハらくらくクレジット》が、料率引下げにより大変お求めやすくなりました。

手続きかんたん

支払いらくらく

ヤマハ  
らくらくクレジット

お支払いは月々3,000円から。最高48回までの分割払いで、お好みのポート、ヨットが手に入ります。ボーナス併用払いもあり、幾とおりものコースから自由に選べるので、便利にご利用いただけます。なお、お支払い方法によって実質年利率が多少異なります。

料率体系 (61.4.1 現在)

単位 (%)

コース	3万~100万未満			100万~300万未満			300万~		
	料率(実質年利率)	料率(実質年利率)	料率(実質年利率)	料率(実質年利率)	料率(実質年利率)	料率(実質年利率)	料率(実質年利率)	料率(実質年利率)	
3回	4 (23.75)	—	—	—	—	—	—	—	
6回	6 (20.25)	—	—	—	—	—	—	—	
10回	8 (17.00)	—	—	6 (13.00)	—	—	—	—	
12回	9 (16.25)	—	—	7 (12.75)	—	—	—	—	
16回	12 (16.50)	—	—	10 (13.75)	—	—	—	—	
20回	15 (16.50)	—	—	12 (13.25)	—	—	11 (12.25)	—	
24回	18 (16.50)	—	—	15 (13.75)	—	—	13 (12.00)	—	
30回	22 (16.00)	—	—	19 (14.00)	—	—	16 (11.75)	—	
36回	26 (16.50)	—	—	22 (13.50)	—	—	19 (11.75)	—	
48回	—	—	—	30 (13.50)	—	—	27 (12.25)	—	

〈支払い例〉…UF20DX・60馬力付を36回均等払いのケース

- 現金販売価格……2,262,000円
- 頭金……562,000円
- 商品代金残金……1,700,000円
- 実質年利率……13.50%
- 分割払手数料……374,000円
- 分割払金合計……2,074,000円
- 支払期間……36ヵ月
- 支払回数……36回
- 第1回分割払金……58,000円
- 第2回以降分割払金……57,600円